



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～溶連菌感染症について～

8月は久しぶりに溶連菌感染症が1位になりました。令和2～4年の間はほとんど検出されませんでしたが、今年は久しぶりに流行しています。溶連菌感染症にも色々種類がありますが、一般的に溶連菌感染症とは、咽に感染するA群溶血性連鎖球菌を指します。感染経路は主に飛沫感染や接触感染です。2～5日間の潜伏期の後、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌、発疹などの症状が出ます。3～5日で熱は下がりますが、しばしば嘔気や腹痛を伴います。重症化することは稀です。症状発現から10日前後に急性腎炎を合併して、血尿や浮腫や急な血圧上昇を認めることがあります。抗生物質を7～10日間内服することで治療と除菌を行います。

### ～インフルエンザについて～

8月下旬から再びインフルエンザが増加しています。今年の冬～春の流行が少なかったぶん、ダラダラと感染が持続していましたが、再上昇しています。学級閉鎖に関しては、インフルエンザも新型コロナウイルスも両方流行しており、地域や学校によって異なります。現在流行しているのはA型ですので、すでに罹ってしまった方では、A型の亜型やB型に対する免疫をつけたい方は秋のインフルエンザワクチンを接種すると良いでしょう。

### ～新型コロナウイルスについて～

東京都健康安全研究センターの報告によると、現在国内で流行しているオミクロン株は主系統がEG.5.1、第二系統がEG.5.1.1、第三系統がXBB.1.16となっています。一方、9月20日から始まる新型コロナワクチンの型はXBB.1.5に対応したワクチンであり、現在流行している株とは異なっています。症状は急な発熱、咽頭痛、頭痛、倦怠感などで、インフルエンザと似たような風邪症状です。

### ～新型コロナワクチンについて～

世界保健機関(WHO)は健康な小児に対するワクチン接種は優先順位が低いとして、国ごとの状況を加味した上で小児のワクチンの必要性について検討する事を奨めています。日本小児科学会では推奨されています。

9月20日から始まる秋接種について、厚生省の資料にある公的関与は、**基礎疾患のない方は本人や保護者に対する努力義務は無く、市町村からの接種勧奨の義務はありません**。WHOはワクチン接種は有効かつ安全としていますが、9月20日から始まるXBB.1.5価ワクチンはマウスでの試験(非臨床試験)のみで、ヒトで行う臨床試験は行われていない特例承認医薬品です。つまり、ヒトでの安全性は不明です。また、9月8日に行われた第50回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会参考資料に記載されているXBB株に対する中和抗体の測定値(つまり、ワクチン接種する事によってどの位マウスの抗体が上がるかの数値を表す)グラフ(右の図1)を見ますと、XBB株の抗体価は武漢株の抗体価の10～100分の1程度しかないことがわかります。このグラフは片対数グラフ(たて軸が10の乗数)になっていますので過大評価しないよう注意が必要です。

### ～新型コロナワクチン副反応について～

9月7日、東京都の厚生労働省会見室において、ワクチン問題研究会代表理事の福島雅典氏らが記者会見を行いました。令和5年4月30日までに報告された接種後の死亡者は2076件、重篤副反応が8638件、副反応疑いが36457件。昭和52年から開始された予防接種健康被害救済制度の累計認定者数は2021年に開始された新型コロナワクチンだけで4,098件であり、過去44年間(1977年2月～2021年12月の総数3,522件)の日本国内全てのワクチン健康被害認定者数の総数を超えている。世界的にもワクチン接種後症候群が社会問題となっており、新型コロナワクチン接種後に遷延する健康被害が顕在化し、有効な治療法に辿り着けずに長期的に苦しんでいる患者が多く存在する。ワクチン接種後症候群の診断基準の作成、鑑別診断法・検査法の開発、診断ガイドラインの作成、有効な治療法の開発を目指すことなどを発表しました。これらの詳細については一般社団法人ワクチン問題研究会のウェブサイトからどなたでもご覧になれます。

文責：清水マリ子

表：8月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

|    | 感染症          | 患者数 |
|----|--------------|-----|
| 1  | 溶連菌          | 101 |
| 2  | 胃腸炎(7/12含む)  | 82  |
| 3  | 新型コロナウイルス    | 36  |
| 4  | ヘルパンギーナ・手足口病 | 32  |
| 5  | とびひ(伝染性膿痂疹)  | 7   |
| 6  | 突発性発疹        | 5   |
| 7  | インフルエンザA型    | 4   |
| 7  | RSウイルス       | 4   |
| 9  | 咽頭アデノウイルス    | 3   |
| 10 | ヒトメタニューモウイルス | 2   |
| 10 | おたふくかぜ       | 2   |

あんず通信バックナンバーは  
クリニックホームページからご覧になれます。<https://ssn-clinic.net/>

